

萩ヶ丘小学校 学校だより

No.11
2月1日

木の里に輝いて

学校教育目標 ③はつらつとがんばる子 ④疑問をもって学習する子
①心身ともに健康で、ねばり強い子 校長 羽太 高裕

主体的に学習に取り組む子供たちを目指して ～「暗唱」の取組を通して～



2月3日は立春です。暦の上では「春の始まり」と言われていますが、一年で最も寒い時期でもあります。立春が寒いのはなぜでしょう。調べてみると、気温こそ低いですが冬至の頃より日の出は約10分早く、日の入りは約40分遅くなって、昼間の時間が約50分ほど長くなっています。ですから、気温が上がり、暖かくなってくるのではと考えますが、昼間の時間が長くなっても、大きな地球の温度が変化するには時間がかかります。日照時間の長さが気温に反映されるには、およそ1～2ヶ月かかるといわれていて、大寒から立春の頃はちょうど冬至の頃の日照時間の短さが反映され、一年で最も寒い時期となるのだそうです。しばらく寒い日が続きますので、体調に気を付けてお過ごしください。重ねて、新型コロナウイルス感染予防にご家庭でもご協力ください。

さて、萩小は今、空前の「暗唱」ブーム（大袈裟ではありません）。2学期は「雨にも負けず（宮澤賢治）」に挑戦し、全員が覚えました。今学期は、各学年ごとに暗唱する作品を決めて取り組んでいます。1～3年生は「竹取物語」、4～5年生は「生きる（谷川俊太郎）」、6年生は「春望（杜甫）」、なかよしは「私と小鳥と鈴と（金子みすゞ）」に挑戦中です。子供たちは作品を覚えると、まず担任に聞いてもらい、そこで合格すると校長室で校長に聞いてもらい、すらすら暗唱できると合格となります。2学期は作品を覚えるのに時間を要していた児童も見受けられましたが、今学期は多くの児童が短い期間で合格して、笑顔で校長室を後にしています。子供は覚えたことで自信をつけ、更に仲間から称賛され、次への意欲に繋がっています。すでに、2作目、3作目の暗唱に取り組んでいる子供もいます。みんなで1つの目標に向かって、仲間と励まし合いながら努力する。ここに学校教育のよさ、みんなで学習するよさがあるのだと感じます。

ところで、「暗唱」は言語教育としてどんな意味があるのでしょうか。

- 1: 言語のひびきやニュアンス、リズムなどの快さを、音声化を通して体験させる。
- 2: 音声面の印象を通して、作品に込められた書き手の思いを直感的に把握させる。
- 3: 言語感覚を育て、日本語の味わいを感得させる。
- 4: 言語の音声的側面の受容力・感受力を高める。

（小学校学習指導要領 文部科学省）

ぜひ、この機会にお子さんと暗唱に取り組んでみてはどうでしょうか。



< 体育朝会（短縄跳び） >

1月13日（水）に、体育朝会で短縄跳びを行いました。前半は体育委員による技の紹介、後半は自分で決めた技に挑戦しました。



< 避難訓練 >

1月19日（火）の3校時に避難訓練を行いました。今回は、各学年ごとに消火器の使い方・場所の確認を行いました。



< 書きぞめ展 >

1・2年生はフェルトペンで、3～6年生は太筆で丁寧に書き上げました。



2月の予定

- 6日（土）授業参観・懇談会
- 12日（金）振替休日（6日）
- 18日（木）オープンスクールin萩小（中止）
- 19日（金）ありがとう集会・学校運営協議会
- 20日（土）資源回収（中止）

お礼

子供たちのために
ありがとうございました。

- 書き初めの名前の手本を山口武道様に書いていただきました。
- 縄跳びのジャンプボードを関口工務店さんに作製していただきました。

